

地域住民の視点からの ICT インフラの有効活用調査について
(中間報告)

1. 調査目的

能登地域の ICT インフラ活用において、能登半島 3 市 4 町連携による映像コンテンツ制作及び配信が有用であることの検討資料とすることを目的として、能登地域に特徴的な行事、産業、生活状況等を取材し、映像として記録する。

取材対象は、地域に定着した住民が発信したい行事等を主眼とするもの、いわゆる「よそ者・最近の若者」が知りたい行事等を主眼としたものを 3~4 件選定する。

2. 調査概要

①メンバー：金沢星稜大学 澤信俊ゼミの学生 6 名

期間：9 月 21 日（日）～22 日（月）

対象：七尾市能登島日出ヶ島 民宿「日の出荘」

内容：作陶・案山子窯、日出ヶ島集落調査、天草採集、ところてん製造など

選定ポイント：能登島内でスポットが当てられていないこと。金沢から近距離にあるため地域として衰退する可能性は低いが、将来、能登島らしさを活かした街づくり（自転車で 1 周できるサイクリングロードの整備など）の余地がある。

②メンバー：金沢星稜大学学生 澤信俊ゼミの学生 7 名

期間：10 月 3 日（金）～10 月 5 日（日）

対象：珠洲市狼煙町 農家民宿

内容：狼煙町内集落調査、「岬自然遊歩道歩こう会」行事参加、

たこすかし体験、珠洲市内地域資源・集落の調査活動など

選定ポイント：能登地域のなかでも最北端の過疎地であること。集落内の民家を民宿として活用することで、大型旅館とは異なるメリット（設備投資が不要、長期滞在可能、安価など）をアピールできる。また、ケーブルインフラやインターネットを活用し、地域外へ積極的な情報発信を行うことで、地域資源を活かした雇用が創出される可能性が大きい。

※いずれも、地域の生活状況を主眼に選定を行った。